



留学生と語り合う No. 58

RKKニュース (2015年新年号)

NPO法人 留学生と語り合う会(RKK) Relationship and Kindness are the Kings of Peace

第10回 日本語スピーチ大会

日本語指導グループ 布津、岩科

私共RKKは毎年恒例の日本語スピーチ大会を11

月23日、かながわ県民センターにて開催し、70人近くの参加を得、第10



回の節目に相応しい盛会になりました。当日は留学生

7人が自由に自分の思いを発表いたしました。今や、世の中はグローバル化して年々国際色が豊かになり、スピーチ大会では中国、ベトナム、インドネシア、モンゴル等の留学生が熱弁をふるっていました。

発表者からはそれぞれ国の風俗、習慣、名所、遺跡等の発表や日本での生活体験談、そして、一方では国対国の複雑な問題を抱え、なんとか両国の友好の懸け橋になりたい旨の発言もあり、その実現を願わずにはいられません。彼らは遠い祖国を離れて日本に来て初めて異文化に触れ、彼らなりに驚き、悩み、苦しみ等の葛藤を抱えているものの、それをなんとか乗り越えようとする、そのポジティブな姿は実に素晴らしいと思います。今回のスピーチ大会では、発表者と共にそのチューターも紹介し、留学生との親密さが伺えました。発表会後は留学生との交流会で懇親を深めました。

発表の皆さんにはこのスピーチ大会に出場のお祝いとして、日本での留学を終えた時、日本に来てよかったと思ってもらえるように願ってやみません。また、本会は神奈川新聞に報道され、大きな関心呼びました。(付記) 日本語スピーチ大会発表草稿はHPに掲載。

日本語スピーチ大会発表プログラム(2頁)をご参照。

The 10th Japanese Speech Contest

Reported by Futsu and Iwashina

(Japanese language instruction group)

RKK held the annual Japanese Speech Contest at Kanagawa Kenmin Center on Nov. 23rd, 2014 with almost 70 participants. It was a very successful contest suitable for its 10th anniversary. This year, the seven international students from China, Vietnam, Indonesia and Mongol presented their thought freely and passionately. As globalization proceeds, the nationalities of students are diversifying year by year.

Some presenters spoke about things like manners, customs, sights and remains in each country and their life experience in Japan, others mentioned that though there were complicated issues between countries, they hope to build a bridge of friendship for both countries. And we can't help wishing that they could make their dreams come true. Since they left their countries and came to Japan, they must have gotten cultural shocks and kept conflicts having worries and troubles. However, they have tried to overcome every difficulty and be positive, which really impresses us.

In the contest, we could see the close relationship between the presenters and their tutors when they were introduced together. After the presentations, the participants including the international students cultivated friendships with one another at the exchange party.

We hope that this contest becomes a valuable memory for the presenters and they can think that it is good to have come to Japan when they finish their studies here. This event was reported in the Kanagawa Shimbun, and it attracted a lot of attention.

The drafts of all speeches are posted on the RKK Website.

Translated by Azusa Sugita

お知らせ

日本語の教え方 ブラッシュアップ講習会

日時 ・ 2月14日(土) 13:30~16:30 (302号室)

& 会場 ・ 2月22日(日) 9:30~12:30 (301号室)

「かながわ県民センター」内

申込先: e-mail sakura_tudakei@ybb.ne.jp (津田まで)

電話・fax: 045-316-5220 (岩科まで)

社会・企業見学会

見学先: ・ 電車とバスの博物館

・ NEXCO 日本コミュニケーション・プラザ 川崎

見学会日: 2015年3月4日(水)

集合場所: 田園都市線 宮崎台駅 改札口

集合時刻: 午前9時45分まで

詳細は HomePage または案内チラシをご参照ください。

氏名	出身国・留学先	テーマ
・李 博決 Dane Hai Nihu	中国 横浜国立大学	日本の留学生活で感じた事
・ダン ハイ ニュ	ベトナム 関東学院大学	日本の生活
・屈 博輝	中国 法政大学	地域活性化のすすんでいる町の視察についての感想
・ヌエン ダック ヒュウ	ベトナム 横浜国立大学	ベトナムのお正月
・レディシア サンデラ	インドネシア フェリス女学院大学	パリのお正月
・王 広波	中国 横浜国立大学OB	日中文化の違い
・ルブサンダナル ブルブツェンゲル	モンゴル 横浜国立大学	日本の留学で学んだこと

留学生からのたより



「心から分かり合えるには…」

Luca Tabca Schaefer Germany Ferris (ドイツ、フェリス女学院大学)



私はドイツ人だから、文化と教育が違って、はっきり言いすぎるところが沢山ある。ヨーロッパ内でもそうかもしれないが、ドイツ人の目で見ると相手の気持ちを大事にしたいからこそ曖昧な言葉を使わないではっきり物事を言う。例えば、ある日、ドイツで日本人の友達3人と一緒に買物に行き、服が似合うかどうか聞かれた。着ている服が全然似合わなかったからもちろん「似合わないな」と答えた。それを聞いたら、

3人が大声で笑い始めて、「ルカちゃんって、なんでもはっきり言うんだね」と言った。はっきり言いすぎる？ そんなことは初めて知った。今まではっきり言いすぎることに気がつかなかったから混乱した。ただその時の気持ちを伝えなかった。似合わないからきちんと伝えなかったのに勘違いされた。そのあと友達同士でも日本人と話すなら、もっと言葉に気をつけなければならないと思い始めたけれども、どうやったら私の気持ちをきちんと伝えられるかはまだ分からない。

また、曖昧な言葉の中にドイツ人が非常に間違えやすい表現がある。それは相づちを打つということです。ドイツでは失礼なことになる。相手が話している途中は絶対話してはいけない。日本人からドイツ人の話を聞いたら誰がいつ話をしているのかわからなくなると言われたこともある。相づちなどは日本人にとっても聞いたことがないかもしれないけれども、ドイツ人にとっては中々曖昧なことだ。

はっきり言いすぎるところがあるけれども、それはただ性格の違いだと思っていた。文化と言葉にも関係があるということを考えなかった。物事ははっきり言わないことはもう分かったのに、理解ができなくて、よくわからない気持ちが残っている。それでも、文化の違いだけでなく、もっと深い意味があると感じた。曖昧な言葉を使うというのは、相手を傷つけないように優しい言葉を使って、はっきりしないこと？、はっきり何でも言うことは良いことか良くないことか、ずっと考え続けていた。それは日本人同士では当たり前で、皆が守っているルールだけれど、違う国から来た人にとって、はっきりしないことはまた違う意味があるのではないかと。(原文のまま)

日本に留学して

朱 楓 (中国、横浜市立大学)

日本へ来てもう四年になります。四年前、小松空港から友達と一緒に力を合わせて荷物を金沢市の家まで搬送してきた情景はまるで昨日のように思い出されます。当時、金沢の大学で勉強をして、高い物価、孤独感、ホームシック、日本語の勉強、アルバイト探しなどいろいろ大変でした。しかし、今振り返ってみると、何事にもかえがたい、良い経験をしたと思っています。

金沢の大学を卒業した後、横浜に来て、横浜市立大学の大学院に入学しました。現在、大学院で国際マネジメント研究科で勉強しています。修士論文は横浜市地域ブランド「ヨコハマ・グッズ001」を中心として、研究しています。修士論文のデータを取るために、いろいろな企業を訪問し、インタビューを行っています。非常に面白い経験をしています。来年の3月に卒業して長い日本での留学生活が終わります。嬉しい気持ちとともに懐かしい思い出で胸がいっぱいです。


この長い間に、大学での勉強、多くの人と付き合っていく中で体験、耳に入ってくる情報からの学習といった様々な形で社会体験などから、日本での留学生活が大変勉強になりました。例えば、去年の夏休みに横浜銀行とIES国際支援協会でインターンシップを行いました。日本の職場を体験して、残りの学生生活ですべきことが明確になりました。社会人になってからできることを今から準備しておくことが大切だということです。この経験を母国に持ち帰り、将来の就職活動の中に活かしたいと考えています。

日本での留学生活は当初、寂しかったのですが、充実していたと思っています。勉強とアルバイトで私の時間を大部分を占めていましたが、アルバイトは私を成長させてくれました。今まで、楽なアルバイトも辛いバイトもいろいろ経験しました。仕事中に間違えて怒られ、泣いたりすることもありました。このように留学生活は思った以上に厳しかったのですが、今は貴重な体験だと思っています。

留学生活に慣れた頃から、暇がある時、テレビを見たり、音楽を聞いたり、美味しい料理を作ったりして、過ごしてきました。また、日本のことをさらに知りたくて、京都、奈良、大阪、鎌倉、日光、札幌、小樽など多くの場所へ旅行にも行きました。自分の国では、このように色々な所へ行くことはなかったのですが、そして、温泉、紅葉、伝統的な祭り、新幹線など人生初めてたくさんの旅行体験をしました。本当に楽しかったです。旅行する度、日本は人が住む国土面積が狭く、地震、台風といった天災があるにもかかわらず、自然に本当に恵まれていること、そして国民がよく頑張っていて豊かな生活を送っていることに感心しました。

留学生としての毎日の生活は神奈川県国際研修センターで暮らしています。RKK日本語先生や各国の留学生や研修員、スカラシップの人たちとの交流を深めることができました。最後に、4年間日本での生活でお世話になった人たちに心から感謝いたします。ありがとうございました。(原文のまま)

会員募集中

RKK活動に興味をお持ちの方は会報や行事案内などをご提供します。
入会申込書にはホームページ「入会案内」から入手できます。
詳しくは、Home Page(Web Site) [RKK NPO](#)  で検索をお願いします。



元留学生からのたより

にほんきぎょう しゅうしよく りゅうがくせいへ
日本企業に就職したい留学生へ



陳海鋒（中国、横浜国立大学OB）

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年、私は研究や修士論文と苦闘しながら、就職活動もバタバタしていましたが、運良く気に入っているベンチャー企業に就職できました。ここで留学生としての就職活動の経験に基づき気をつけるべき問題等をお話します。

2014年新卒の就職率に関する調査結果によれば、日本人の学生は97%、留学生は26%でした。平成27年以後の卒業生の就活は例年より開始時期が遅れます。つまり、選考の期間が短縮されました。正直に言うと、準備不足の留学生は短期決戦で例年以上に内定獲得が困難になります。

また、後から準備すればいいと油断してしまい、結果、出遅れる留学生が多く出てくると思います。特に、理系は学業が忙しくなる最終学年の春・夏と就活が重なり、学会発表の時期でもあるので、就活との両立がスケジュール的にさらに厳しいだと考えております。だからこそ、今後、短期決戦で勝つために十分な準備をしなければなりません。

まず、自己分析と業界分析さえきちんとやれば、9割の人が成功できると言われます。実際、留学生の自己分析は「自分は本気で日本に就職するのか」から分析するべきだと思います。多くの留学生が「就職できなければ帰国してもいい」という考え方を持っていますので、これは前へ出る行動力の心理障害になります。私は面接で「何故、日本に就職したいか」、「日本で何年間仕事をしたいか」等の問題をよく聞かれました。留学生が日本人学生より質問されやすい質問なので、日本に就職したい理由も重要だと思います。本気で日本に就職したければ、決意してやるしかありません。不本意のまま進学したり、母国へ帰国する結果を避けましょう。

また、企業や就職に関する情報について、日本人学生と比べると、留学生には両親・兄弟・先輩・友人等の情報が入ってくる経路が少なく、就職活動前の情報量が圧倒的に違います。だからこそ、情報収集と関係の活用工夫する必要があります、どんな関係でも使えるものなら全部使しましょう！

もちろん、多くの留学生は語学力の不足のため、面接で緊張する場面が多く、特に自己PRの題材が少ないし、学業不優秀の心配をし、段々自信がなくなります。しかし「仕事なら誰にも負けない」ぐらいの自信を持たないと、今後の仕事も難しくなります。最後に一番重要なことは、どんな困難があっても内定まで就活を諦めないことです。自己分析や業界分析をすることよりも何よりも、就活で内定が欲しいのなら「絶対内定を取る」、これだけを守ればいいと考えております。（原文のまま）



新入正会員のみなさまへ：よろしくお願ひします！

入会正会員：飯田有季子（藤沢市）、服部周平（西区）、佐野千恵子（神奈川区）
小村俊二（戸塚区）、根本敬（港南区）（敬称略）

Singapore シンガポールで日本を思う

林 盼青 (中国、横浜国立大学OG)



RKKの皆様、明けましておめでとうございます！皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。本年もよろしく願いたします。

去年の夏、12年間住んでいた日本を離れてシンガポールに転居しました。シンガポールは日本のように治安がよく、街が綺麗で住み心地の良い国です。ただし、日本のような四季がなく、一年中夏という感じです。また、日本と異なり、中国系、マレー系、インド系等と多人種であり、その故、食べ物、文化、風習、言語なども多岐に渡ります。とにかく新鮮でカラフルなシンガポールで新生活を楽しんでいる中で、最近、日本はだんだん遠くなった気がし始めました。

しかし、先日、大晦日のコンサートに行き、途中、夫から「そう言えば、今夜紅白があるよね」という一言から、なぜか日本が急に懐かしくなりました。日本に住んでいた時、ほぼ毎年紅白歌合戦を見ていました。そして、年越しそばも食べて、23時頃になると、近くの神社へ出かけ、除夜の鐘を聞きながら新年を迎えていました。ところで、日本で過ごした12回のお正月の中で一番忘れがたいのは、日本での最初のお正月に、バイト先のおばちゃんに家に招かれ、初めておせち料理をいただいたことです。おせち料理の豪華さに驚いたと同時に、日本人の優しさ、おもてなしに感動しました。その後の12年間もたくさんの日本人の方に親切に接して、応援したり助けたりしていただきました。もちろんRKKの皆さんはその中の一つです。見学会や日本語スピーチ大会に参加させていただいたりしたことは、日本生活の楽しい思い出になりました。また、私一人だけでなく、日本語指導を受けて日本語が上達したホームステイやイベントに参加して日本の文化を体験し、より有意義な留学生活になったなど、他の留学生からの便りの中で綴った感謝の言葉のように多くの留学生たちがRKKの支援を受けており、日本という国に良い印象を持つようになったのが事実です。活動を継続していくのが簡単ではないと思いますが、このような素晴らしいRKKにはいつまでも存続していただきたいという気持ちです。そして、日本から遠く離れたシンガポールで生活している私も日本を忘れず、日本語を忘れず、日本の留学生活、自分の知っている日本を周りの人に教えていけばと思います。(原文のまま)



(コンサートの模様—マリナーベイ)

にほんりゅうがく おも で 日本留学の思い出

張 岩 (中国、横浜国立大学OG、現、山東大学 准教授)



「光陰、矢の如し」。日本から中国に帰ってきて、あと3ヶ月で十年間になります。この十年間に私はアメリカやイギリスでも訪問学者として滞在したことがありますが、日本の印象は私の心の中に深く根付き、常に日本に戻る夢を見ていました。春の爛漫な桜、夏の緑の植物、秋の火のような紅葉及び冬の澄んでいる青空はいずれに私の心に刻み込まれています。富士山、箱根、鎌倉及びみなどみらい等、RKKの皆様と連れて行った美しい処は、写真を見なくても常に私の目の前に思い浮かべています。日本の清潔なお寺に見学の時、又は綺麗な和服を着ている可愛い女の子を見る限り、日本文化に対する感心(関心)がより深くなっていました。礼儀正しさと日本社会の特有な秩序守り等の良さ、私たちにとって学ぶべきなことはいっぱいあります。

そして、何よりも大切なのは、日本留学の間、多くの日本人と出会い、日本の文化や習慣などを理解できるように、たくさんの日本人の友達もできたことです。特に幸運なことに、私はRKKの親切な方々に出会い、いろいろ教えていただき、助けていただきました。いつまでも忘れないのは、私が博士論文提出の締め切りに追われ、日夜苦悶の時に、大田先生は頻繁なメールのやり取りを通じて、私の論文を何度も修正していただき、提出に間に合うよう私と一緒に戦っていただきました。松本先生は自分の病気にもかかわらず、私に日本語を教え、生活の面でも大変お世話になりました。有泉さんご夫婦は私を自家に招き、綺麗な和服を着せていただき、日本の伝統文化も紹介してくださいました。日本での留学生活は大変でしたが、先生方や友達のお蔭で、私はいろいろな困難、寂しさなどを乗り越え、幸せな思い出がいっぱい残りました。今日、この場を借りて、もう一度、RKKの素晴らしい皆様へ深く感謝を申し上げます。

日本で博士号を取得した後、私は中国の山東大学に戻り、続けて教えることになりました。できる限り、私は日本人の留学生達に面倒を見てきました。現在山東大学と横浜国立大学の全面的な交流と協力協定の締結に努め、日中友好の架け橋になる夢を実現するために一生懸命頑張っています。(原文のまま)

【張さんと私】 大田 孝生 (顧問)

張さんとのマッチングは2003年4月で、指導の目的は彼女の博士論文の日本語指導。期間は3年間で博士号取得を目指す目的のマッチングであった。3月と9月の締切日が近づくたびに毎晩深夜までメールの交換が続いた。結果は3年後、めでたく博士号取得実現。論文は印刷され、頂いたものを見ると謝意の欄に5人並んでいて、私以外は経済学関係の教授だった。私の欄には“この方は同じ戦場で共に戦った戦友です”とあり、ビックリ。女性から戦友と言われたのがこれが始めて。

しかし、実際の功績にはあまり関係なく、張さんが私に花を持たせるために仕組んだ仕掛けであって、張さんの好意というほかはありません。

社会・工場見学記

浜離宮の散策と新橋鉄道の感想

敵 玉 潔 (中国、横浜国立大学)



去る11月30日にRKK会員の方と私を含め県内大学の学生15人程度で東京都中央区にある「浜離宮恩賜庭園」の散策と「旧新橋停車場」の見学をしました。「浜離宮恩賜庭園」は、江戸時代の面影が残る徳川将軍の庭園で海水を導き潮の満ち引きにより池の形をかえる「潮入りの池」や歴代の徳川将軍がカモ猟を楽しむ「鴨場」を有している杜で自然豊かな大庭園でした。「旧新橋停車場」は、明治20年代に東京の近代的都市計画の一環で日本最初の高架鉄道として建設された新橋～上野間の起点駅で、駅自体は現存しないが、当時と同じ場所に当時の写真や資料をもとにプラットフォームや駅舎が正確に再現されていました。

当日は12時半に新橋駅で集合し、まずは歩いて「浜離宮恩賜庭園」へ行きました。お天気に恵まれ暖かい日差しを浴びて、参加した皆さんはすっかり打ち解け和やかな雰囲気の中で一日が始まりました。都会に有りながら広大で自然豊かな「浜離宮恩賜庭園」の秋景色の全貌を目にした時、心が洗われたように感動しました。また、遠い江戸時代から庭園のあり方や手入れが行き届いて保存されている「松の御茶屋」や堂々たる姿の「三百年の松」などから日本人の伝統文化の伝承や保護などへの努力を実感し、「潮入りの池」や

「鴨場」の仕組みを理解して古人の知恵の豊かさもたくさん感じました。庭園の小山に上りあたりの景色を眺めたとき、隣接する東京の近代ビルとこの日本庭園の対峙は、まるで歴史と現在のコントラストの描写を思わせて、とても興味深いものとなりました。先人の努力で築き上げた過去の財産を現代人は大切にしないといけないだろうと思います。

RKKの会員の方々と話し合ったり、記念写真を撮ったり、楽しく「浜離宮恩賜庭園」を散策することができました。その後、16時に今年開業したばかりの「旧新橋停車場」の鉄道歴史展示室へ移行しました。綺麗なイルミネーションを渡って、日本最初の鉄道の様子や鉄道がもたらした近代国家への役割などを学ぶことができました。また、色や形が正確に再現された駅舎や軌道を見ると歴史の重厚感が心に響き、実際に明治時代にタイムスリップしたような気持ちになりました。旅行、本、映画この三つは私にとってより早く日本や世界を知る方法です。RKK会員の方々のおかげで、有意義とても楽しい日帰り見学ができて本当に心から感謝しております。

(原文のまま)

【RKK社会・工場見学Gの報告】

心配した天気も幸い好天に恵まれ、留学生13人、日本人サポーター22人、合計35人の参加を頂き、周囲を東京のビル群に囲まれた浜離宮恩賜庭園の紅葉を楽しむことができました。多数の参加者にも関わらず、参加者皆さんのご協力により事故もなく無事に開催できました。感謝申し上げます。(山口 記)



文化交流

祭りだ 祭りだ RKK文化祭開催

徳屋 英生 (ファミリー交流グループ)

今日は文化の日でも祭りをやってるってよ、みんなで行って遊ぼうよ、何かいっぱいあるなー、端から見ようっ！ わー似顔絵だ、美人に描いてよ、お姉さん、それは無理って言うもんだ、ありのままにだよ、

次はなんだ、日本の昔からの遊びだっさー、おはじき、折り紙、福笑い、まだまだあるよ、けん玉、ヨーヨー、コマ回し、紙風船、昔の遊びっていっぱいあるなー、こっちは習字、囲碁、将棋もあるよ、なんだか難しそうだな、でもおもしろそう、和服姿のお母さんのお茶もおいしかったなー、でもちょっと苦かったよ、まさに日本だね、

次のコーナーはお絵かきだ、筆を持ったのは久しぶりだなー、今度はなんだ？ おー中国小姐がゆかたの着付けをやってるよ、ゆかたも International になったもんだ、

回りの壁際には写真や絵画が一杯だ、うまいもんだね、今年初めてやったんだって、お返してわけでもないが、僕たちもおらの国の紹介だ、今年は Rwanda, Bangladesh だ、エーイ どうだ みんな知っていたか？ 留学生、日本人合わせて60人余りも参加したんだって、大盛況だね、来年も楽しみだなー



日本でのお正月

リゅう ちゆうごく Ferrisじやがくいんだいがく
刘 畅 (中国、フェリス女学院大学)

私にとって、2015年のお正月は、特別かったです。「外国でお正月を過ごす」、「おせち料理を食べる」、「皮から餃子を作る」、いくつ「初め」を体験できました。



1月4日に杉田先生と娘さん、留学生4人と日本の高校生1人、河村先生のお宅に集まりました。外が寒いでしたが、先生のお宅の雰囲気は暖かったです。私たちは先生のお宅に着いた時、ちょうど先生たちと娘さんがおせち料理を準備していました。写真を見たことがありますけど、現実のカラフルな精巧なおせち料理を見て、まだびっくりしました。また、私達の留学生は、一緒に水餃子を作りました。餃子は中国の伝統的な食べ物として、「豊かになる幸せで円満な」の意味があります。餃子の皮と肉餡は全部手作り、新年の美しいお願いを餃子の中に包み込みました。

食事の準備が終わってから、美味しいおせち料理を食べながら、先生から料理の寓意を伺って、面白い知識を身につけました。黒豆(昔はまめに働く農民の肌が黒くなり、健康的に)、栗(黄金色でよく蓄財につながる)、ぶり(出世魚のぶりで立身出世を願う)、海老(腰が曲がるまで長生きできるように)、れんこん(穴があいていることから、将来の見通りがきくように)など、それぞれの良い寓意を含み、色色勉強になりました。おせち料理ではなく、アイスクリーム、ケーキや果物などもいただきまして、皆さんいろいろな話ができて、非常に楽しい時間を過ごしました。そして、河村先生もマジックショーとゲームを用意してくださって、言葉にできないぐらい楽しかったです。本当に完璧なお正月だと思います。

RKKの河村先生と杉田先生のおかげで、美しい思い出になりました。いつもお世話になり、私にとって、先生たちは家族みたいな存在です。



(留学生による餃子作り)

去年の4月、桜満開の時、私は交換留学生として日本に着きました。周りの皆様は大変お世話になりました、綺麗な心、本当にありがとうございます。2月15日に、中国に戻ります。私と日本の縁は、終わりではなく、始まりだと思います。これからも先生たちのような中国と日本、より良い関係を作るといふ思いを持ちながら頑張っていきたいと思ひます。

(原文のまま)



私に ほんぶんかけいけん 私の日本文化経験

Thomas Kloska (スロバキア、フェリス女学院大学)

外国人の若者は日本文化の様々な分野から日本語の勉強に入りますが、わたしは書道や水墨などのような伝統的な美術から入りました。日本に来る前に大学で日本の文化や習慣などについて色々勉強していたので、来日してからそんなに驚いたことはなかったですが、今まで勉強したことを実際に体験するのは大変貴重な経験だと思います。それから、日本に来てからまだ4ヶ月しか経っていないので、まだいろいろなことが分らなくて、これからも日本文化の様々な現象を体験したいと思います。



また、私の日本での生活は大学での勉強だけではありません。先ほど書いたように書道や水墨画に關心を持っていて、いろいろな方法で書道が楽しめる機会を探しています。暇な時は書道展に行ったり、実際の書道の練習したりするようにしています。国では書道に触れるチャンスがあまりありませんが、横浜にはいつも新しい書道展が行われているので、数多くのインスピレーションを受けたり、本物の作品を観ることが出来ます。

最後に言いたいことは、日本語の勉強のおかげで、日本の文化や習慣について色々なことが理解できることだけではなくて、その上で、日本人といろいろな国の友達もたくさんできました。(原文のまま)

私の日本語指導

難しいけど、楽しい

(私の日本語指導)

東地区 鈴木隆

私は現在、北京から来た干泳さんという女性のチューターをしています。彼女は御主人の日本駐在に伴い、平成25年の2月に日本にやってきました。当初、マッチングの際に、彼女が未だあまり日本語が出来ないという話を聞いて、私は日本語を教えるのは初めてだった事もあり不安を感じていました。しかし、始めてみると、彼女は既に基礎的な会話や読み書きは出来るレベルで、何より日本語の習得にとても意欲的でしたので、私の杞憂に終わりました。彼女は今ではN1級の試験にチャレンジする位に上達しています。指導方法は学校の授業や問題集などで十分理解出来ないところを説明したり、彼女が作成した色々な構文の作文例を添削するといった方法です。時にはこちらが日本語のニュアンスをうまく伝えられずに苦勞する場面も多々あり、日本語を教える難しさを再認識させられます。上達するにつれて最近ではフリーの会話の割合が増えてきました。週末の出来事、転居時のトラブル、医療や大学受験や孫育てなどの日本と中国の文化や制度の違いといった話題にも拡がり、こちらも楽しく会話が出来て私の頭の活性化にも役立っています。

彼女は日本の文化にもとても興味を持ち積極的に旅行に出掛けたり、生け花やフラワーアレンジメントといった習い事にもチャレンジしています。将来は資格を取ってお花に関する仕事や日本語を使った仕事をすることを目標にして毎日頑張っている様です。日本に来たのは彼女の意志ではなかったでしょうが、それを機会と捉えて努力している彼女を応援したいと思っています。そのうち中国に戻る事になるでしょうが、戻ってから日本での経験を仕事に生かし、日本での生活が楽しかったと思わせる手助けが出来れば嬉しいです。



日本語教え方講習会での落ちこぼれ体験

中央地区 服部周平



RKKの日本語の教え方講習会に参加した契機は、数年前のドイツでの体験です。その夏、ビュルツブルクの高校で日本語講師をしている友人を訪ね、彼の授業を見学する機会があり、私も俄か助手として授業に参加。大人びたドイツの高校生たちが青い目を輝かせながら日本語を学ぶ様子を見て「教えることの楽しさ」に目覚め、日本語教育なら自分にも出来るかも、と胸を膨らませました。

こんな経緯で意気昂然と河島ゆりか先生の日本語教え方教室に通い始めました。先生の優しい語り口もあり、最初は「日本語教育なんて簡単」と高を括っていましたが、回を重ねる毎に日本語文法の手ごわさや日本語の奥深さを思い知り、最初の自信は何処へやら。動詞の活用で頭が混乱したまま、講座は終了。もし、講座終了後にテストが行われていたら、きっと教室から逃げ出したに違いありません。

長く日本人を続けてきたのに、日本語を客観的に理解していない自分に然然とする一方、豊富な例を示して理路整然と説明される河島先生に対して尊敬の念を禁じえませんでした。最終回の講座が終了して、すっかりへこんでいた時、深水理事長から修了証書を手渡され、嬉しいやら情けないやら……。

現在はN1の留学生のチューターを任せられ、日本語教育の苦労は皆無ですが、将来初級者を任せられる時は、頭の錆を削り落としてから再度先生にお世話になるつもりです。落ちこぼれ対策もよろしくをお願いします！

地区からのたより

神奈川県国際研修センターとRKK活動

北地区 岩永 教昭

神奈川県は、国際貢献事業の一環として1972年より毎年アジア、中南米、アフリカから技術研修の為の研修員の受け入れを行ってきました。爾来、42年で約50か国600人近くの招聘となっています。その受け入れの施設としての国際研修センターが28年前、旭区に設立され、研修員に加え留学生の在住にも施設を供しています。ピーク時には28人を数えた研修員も次第に減少しこの数年は10人にも満たず50人を収容可能な施設の利用は留學生がほとんどとなっています。



RKKとしては、2004年から在留の留學生と研修員への日本語サポートを開始し、毎年5～10人の皆さんと交流を続けています。特に研修員は、それぞれの国ですでに専門分野でのキャリアがあり、7か月の研修期間で、さらに技術を向上させたいとの意欲があり、そのために日本語を学びたいとの気持ちも強いものでした。RKKとしては、北地区では他の地区の会員の協力も得て、指導を希望するすべての研修員と留學生の対応をしてきています。RKKのスピーチ大会では、多くの研修員、留學生が印象に残る発表をしてくれました。また、研修センターによる在住者とボランティア団体、地域住民との各種交流事業にも、RKK会員が多く参加し交流をしてきました。北地区のRKK活動の拠点でもあるこの施設は、県の方針により来年3月閉館となることは誠に残念ですが、北地区としては最後まで研修員と留學生の出来るだけのサポートをしていきたいと思っています。

第5回 “とつかお結び広場”に参加しました

西地区 荒井 藤樹



平成26年12月7日(日)、戸塚を中心にした市民活動、生涯学習活動およびボランティア活動を紹介するイベントー第5回 とつかお結び広場ーが戸塚区総合庁舎の市民広場と駅西口前デッキを会場に開催されました。132の団体、個人の趣向を凝らしたパネル展示や活動状況報告、実演・実技のパフォーマンスなど会場は終始、笑顔の賑わいを見せました。朝からの晴天も手伝い、関係者を含め老若男女、延べ約4,000人の入場があったとのことでした。RKK西地区も昨年に続き、主催者からの要請もあり、急遽、6人で実行委員を編成し、昨年使用したパネル(再利用)の展示、活動内容を記したパンフレットや写真、チラシ等(入会申込書を含む)を準備して、RKKのPRと新会員の勧誘にと差し入れのみかんを頬張りつつ、近隣のグループ(国際交流グループ)と親睦を図りながら、ブース近くで動しておりました。すると、昼前頃から会場は混み始め、深木理事長はじめ、地区会員がぼつぼつと夫婦仲良く、また、お孫さんを同行され、三々五々来場され、関係者は大いに励まされ、嬉しく思いました。次回は是非、RKKのロゴマークを冠した小道具と留學生2～3人を会場に同行していただければと思いました。皆様にはご協力をありがとうございました。



留学生会館でウインター パーティに参加

南地区 布津 甚大

留学生会館（横浜国大／弘明寺）で、12月12日に開かれたウインターパーティーに、深水理事長、南地区の古谷さん共々参加し、多くの留学生と交流し、RKKのアピールもいたしました。留学生会館の多くの留学生がパーティーに参加し、それほど広くない会場の談話室は留学生で溢れるあり様で、非常に盛況でした。乾杯挨拶は、気の早い“メリークリスマス”でした。



1月に日本語スピーチ大会でスピーチをしてくれたヌエンタック ヒューさん（ベトナム）、ルブサンダ ンダル プレブツエンゲルさん（モンゴル）に会うことができ、スピーチ大会等の思い出話やベトナム留学生（化学専攻）、ドイツの交換留学生等とも楽しい歓談ができました。西欧諸国からの留学生（短期の交換留学生）も思いの外、多く居住しているようです。来賓は、私共RKKの他に、横浜南ロータリークラブ等が参加していました。

おもな活動 (2014/11 から 2015/1 まで)

理事会

◇12/23 サポートセンターR304にて、第3回定例理事会が開かれ、2014年度前半の活動状況および、中、長期的な課題について協議された。

スタッフミーティング

◇12/23午後、サポートセンターR304にて26人のスタッフの参加のもと、2014年度第3回スタッフミーティングが行われ、恒例の活動グループ、地区交流会、委員会それぞれからC&C（報告・連絡そして相談）を実施した。またディスカッションタイムは、「新年に向けて」をテーマに皆さんから希望、抱負、ご意見を伺いました。

活動グループ

◇日本語指導G：日本語の教え方講習会全5回は48人が受講し終了。11/23スピーチ大会は約70人が参加。

◇ファミリー交流G：11/23午後後の文化祭は約50人が文化交流を楽しむ。

◇中国語学習G：11月から新たな期に入り、12人のメンバーが受講。

◇社会・工場見学G：11/29秋の散策（浜離宮）は35人が参加、12/24 崎陽軒工場見学には26人が参加。

地区交流会

◇東地区：12/4に地区交流会実施。次回は3/15を予定。

◇西地区：10/29に年4回の交流会を実施。12/9に戸塚区主催のお結び広場に参加。次回は2/1。

◇南地区：12/14に地区交流会実施。10/29に横国大留学生会館のウインターパーティーに参加。

◇北地区：11/7に中華レストランで地区交流会を実施。11/8国際研修センター「センターデー」に参加。

◇中央地区：横国大峰沢寮、羽沢寮でPRチラシ配布。地区交流会は2/28KANFAN Stationで実施予定。

◇湘南地区：11/22 藤沢青少年会館にて交流会を実施。

委員会

◇会員委員会：11/23 マッチング検討会を実施。

◇広報委員会：RKK ニュース 58 号の編集。ホームページは適時更新。

◇企画委員会：10/30に委員会を開き、ミッションの確認と今後の方向を討議。

◇会計委員会：収支決算・事業計画予算作成。

◇事務室：理事会・スタッフミーティング開催準備、会員委員会サポート活動




ご寄附の御礼

このたび下記の皆様からRKKにご寄付をいただきました。
心より感謝申し上げますと共に、留学生支援活動に有効に活用させていただきます。

・大田 久子 様、 ・松井 淨 様、 ・遠藤 眞喜子 様

横浜夢ファンドのご案内

横浜市には、ボランティア団体の活動支援を目的にした“よこはま夢ファンド”の制度があることをご存知でしょうか。本ファンドへの寄附を通じて、RKKの活動を支援していただけます。ご協力のほどをお願い申し上げます。

詳しくは、[よこはま夢ファンド](#)  で検索し、ご覧ください。

留学生の皆さんへ／For International Students

ボランティアの日本語個人指導を受けてみませんか！



Let's join one-to-one Japanese language teaching program by volunteers.

- ・日常会話（Daily Conversation） ・ビジネス会話（Business Conversation）
- ・卒論、レポートの文書指導（Writing Japanese Theses & Reports）
- ・新聞／書籍等の読解（Reading Newspaper & Books）
- ・日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test）
- ・就職活動支援（Job Hunting・Entry sheets/Interviews）

工場/研究所見学、各種文化交流イベントも楽しみましょう。

Enjoy visiting plants/ laboratories and participating in various cultural exchanges.

連絡先(Contact): 津田(Tsuda) e-mail sakura_tsudakei@ybb.ne.jp

Home Page : <http://homepage3.nifty.com/rkk/>   で検索

編集後記

日本に留学中、会員の皆さんがサポートした元留学生からの便りがありました。留学生OB・OGの卒業後の活躍は気になるもので、今後共、元留学生の便りをできる限り、RKKニュースでお届けしたいと思っております。また、文化祭をきっかけに会員の方々と留学生との文化交流の寄稿もありました。このような文化活動を通じて留学生との交流がさらに広がることが期待されます。

会員の皆様には、留学生・元留学生のRKKニュースへの寄稿にご支援を頂くようお願いいたします。

NPO法人 留学生と語り合う会

Friendship Association for International Students and Japanese Volunteers

RKK連絡先：〒245-0008 横浜市泉区弥生台 9-1-12-407 萩原 敦

eメール：rkk1025office@yahoo.co.jp、Tel & Fax: 045-813-8327

ホームページ：<http://homepage3.nifty.com/rkk/>

RKKニュース編集：RKK広報委員会 新年号担当 深水 智明 Jan. 30, 2015